

インターバンクの声（2017 年 2 月 8 日）

月曜日のニューヨーク市場では、先週末の1月米雇用統計の内容から、3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)が利上げを見送るのではとの見方が引き続き意識され、ドル円は約2カ月ぶりに111円台まで円買い・ドル売りが進んだ。

ドル売り圧力にはめっぽう弱い東京市場だが、昨日はロンドン勢が参入し始める夕方まで111円台後半で我慢する取引が続いた。

111円台前半を下抜けてしまうとドル売りに勢いが付いてしまう可能性もあったが、111円60銭前後までの下落で留まったことで、その後のロンドン市場からニューヨーク市場序盤の反発に繋がったのかも知れない。

実際のところは、東京市場の終盤から米長期金利が上昇し始めたことや、欧州株が上昇して始まったことがドル買いの材料だったが、テクニカル面で重要視されるポイントでの攻防では、こうした材料を無視して相場が動くこともあり、昨日の東京市場の踏ん張りは後々意味を持ってくるかも知れない。

ただ、112円台中盤まで戻していたドル円は、ニューヨーク市場の昼過ぎにもう一度111円台に下落する場面もあり、ドル売りバイアスが依然として残っていることは意識せざるを得ない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。